

小川絵梨子芸術監督 任期ラストを飾るのは豪華演出家たちによるアンソロジー

2025/2026 シーズン

# 20 の物語 一週末を、劇場で— 第二弾、情報解禁！

**総勢 13 名の演出家が参加し、短編・中編作品を中心に、多彩な 20 の物語を上演する“フェスティバル”！  
「B 料金公演」計 15 作品の全出演者を一挙発表！**

## ◆「20 の物語一週末を、劇場で—」とは

新国立劇場では、2026 年 7 月 16 日(木)～8 月 2 日(日)に「20 の物語一週末を、劇場で—」を上演いたします。

小川絵梨子演劇芸術監督の任期ラストを飾るこの“フェスティバル”は、「演劇にできる限り気軽に触れて、より多くのお客様に劇場に足を運んでいただきたい」という小川監督の願いから企画されました。古今東西、古典から現代劇まで、短編・中編を中心に集めた珠玉の 20 作品を、毎週木曜日から日曜日まで 3 週にわたり、週替わりで上演します。「週末は、劇場で物語に浸ろう」。そんな風に、日常の延長線上で演劇を楽しんでいただけるひとときをお届けします。

上演時間は、40 分ものから 100 分前後のものまでヴァリエーション豊かに取り揃えました。多彩な演目をより気軽にお楽しみいただけるよう、お得な「半日券」もご用意。この「20 の物語」は、「A 料金公演」「B 料金公演」に加え、一部「無料公演」の 3 つのカテゴリで構成されています。

第一弾情報解禁では、「A 料金公演」(チケット料金 5,500 円、上演時間 90～100 分前後)として括られる、鶴山 仁の演出のもと「シェイクスピア歴史劇シリーズ」のメンバーが再結集し挑むリーディング公演『マクベス』、そして「こっこつプロジェクト」第三期(2024 年夏～2025 年夏)にて鈴木アツトが取り組んできた『チョコレート・アンダーグラウンド』のキャスト情報が発表となりました。

## ◆「B 料金公演」15 作品について

**今回の第二弾解禁では、「B 料金公演」(チケット料金 3,300 円、上演予定時間 40～60 分前後)計 15 作品の全出演者を一挙公開**いたします。「B 料金公演」の作品ラインアップは次の通りです。

新国立劇場初登場となる赤澤ムックが熊谷達也の連作短編集を再構成・舞台化した『ラツソクの灯』。激動の時代を生きる女性を描いた劇作家・田中澄江の短編を小林七緒が演出する『水のほとりの女』。別役 実と武者小路実篤の短編を、西沢栄治の演出で二本立てでお届けする『トイレはこちら／或日の一休和尚』。演出家としては当劇場初登場となる万里紗が、女性同士の「対立」と「連帯」を描いた一幕劇を二本立てで上演する『ストロンガー／トライフルズ』。さらに、大澤 遊の演出で、「生と死の境目にいる男」を描いた二人芝居の二本立て『命を弄ぶ男ふたり／口に花を持つ男』。蓬萊竜太が自ら演出を手がける短編戯曲『不毛ドライブ』。須貝 英が演出する秋元松代の処女作『軽塵』。新国立劇場 演劇研修所長・宮田慶子が演出する『ロング・クリスマス・ディナー』。蓬萊竜太演出によるアーサー・ミラー円熟期の傑作『ラスト・ヤンキー』(一幕版)。当劇場初登場の山田由梨演出によるリーディング公演『パッシング・バイ』。小山ゆうな演出のリーディング公演『ナディラ』。そして小川絵梨子芸術監督が、チェーホフをオマージュした一人芝居を演出する『煙草のハイ(High)について-吸煙對身體有 High-』。

以上の 15 作品には、新国立劇場 演劇研修所修了者が数多く参加するほか、小川監督就任時よりスタートした「フルオーデション企画」での出会いがきっかけとなった当劇場主催公演初出演のキャストなど、多彩なメンバーが集結しました。世界中の様々な物語を一挙に味わえる、新国立劇場ならではの特別な夏。週末を、劇場で。ぜひお楽しみください。

なお、「無料公演」の出演者は、第三弾として後日発表いたします。引き続きご注目ください。

## B 料金公演 演目

【チケット料金】全席指定 3,300 円

【上演予定時間】40～60 分前後

【公演会場】新国立劇場 小劇場

<1st Week Program: 7 月 16 日(木)～19 日(日)>

### 『ラッツォクの灯』

熊谷達也の連作短編集『希望の海 仙河海叙景』を赤澤ムックが再構成し舞台化。  
東北に生きる人々を通して描く、3.11 からの再生の物語——



(左から)永嶋柊吾、小林未来、那須 凜、延増静美

【公演日程】2026 年 7 月 16 日(木)18:30／18 日(土)14:30  
／19 日(日)18:00

【会場】新国立劇場 小劇場

【原作】熊谷達也(『希望の海 仙河海叙景』集英社・刊)

【脚本・演出】赤澤ムック

【出演】永嶋柊吾、小林未来、那須 凜、延増静美

#### 【あらすじ】

東日本大震災で両親と実家を失った翔平は、妹の瑞希と仮設住宅で暮らしながら、瓦礫撤去の仕事に明け暮れる日々。絶望の淵に沈んだ翔平は恋人・幸子ともうまくいかない。同じ仮設住宅で暮らす、認知症の夫を支える老女・清子や、震災後を駆ける女性ランナーなど、同じような喪失感を抱えつつも生きる人々の姿を目にしながら、どこか前向きになれない兄に声をかける瑞希。「ねえ、今年はラッツォク焚こうよ……」

### 『水のほとりの女』

「貞淑」な未亡人と、「奔放」な未亡人。一見正反対の二人の対話の先にあるものは——



(左から)町田マリー、鹿野真央、笹野美由紀

【公演日程】2026 年 7 月 16 日(木)20:00／19 日(日)13:00

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】田中澄江

【演出】小林七緒

【出演】町田マリー、鹿野真央、笹野美由紀

#### 【あらすじ】

戦死した夫の帰還を信じ、息子と静かに暮らす未亡人きよ。その家に、同じく未亡人で奔放に生きる旧友みちが訪れる。水辺を望む部屋で、二人は夫への執着、喪失の痛み、女として生きる欲望と罪悪感を激しくぶつけ合う。現実を直視し生き抜こうとするみちと、幻想にすがるきよ。その対立と告白の果てに、きよが選んだ道は……。

## 『トイレはこちら／或日の一休和尚』 [2本立て上演]

別役実と武者小路実篤。対照的!?な日本人劇作家のユーモアあふれる短編を2本立てでお届け

【公演日程】2026年7月17日(金)20:30／18日(土)13:00

【会場】新国立劇場 小劇場

### 『トイレはこちら』



(左から)佐野陽一、浅野令子

【作】別役 実

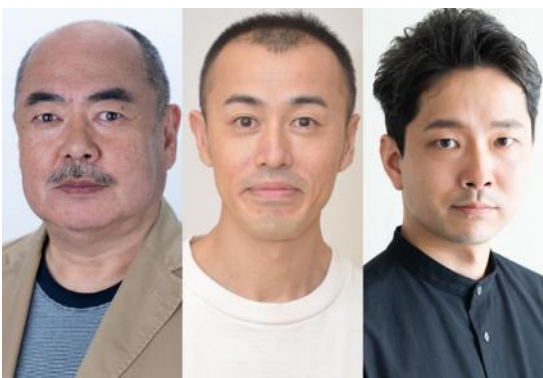
【演出】西沢栄治

【出演】佐野陽一、浅野令子

【あらすじ】

夜。街灯の下で、首吊りの準備をする女がいる。そこに男がやってきて、ベンチに座り、自らの奇妙な「仕事」について淡々と語りだす。それは、1回100円でトイレの場所を教えるというものだった……。

### 『或日の一休和尚』



(左から)原 金太郎、佐野陽一、石原由宇

【作】武者小路実篤

【演出】西沢栄治

【出演】原 金太郎、佐野陽一、石原由宇

【あらすじ】

山中の庵で腹を空かせる一休和尚と寺男。ある朝、一休は突然、追い剥ぎに扮して土器売りの荷を奪ってくる。善悪の境目に戸惑う寺男に、一休は言葉と行いで"餓えた者の道理"を説いていく、型破りな一日の物語。

## 『ストロンガー／トライフルズ』 [2本立て上演]

語られる言葉と語られない思い。二つの部屋で交錯する女性たちの視線が、見えなかった関係と真実を静かに暴いていく。

【公演日程】2026年7月18日(土)18:00／19日(日)19:30

【会場】新国立劇場 小劇場

### 『ストロンガー』



(左から)森川由樹、山田キヌヲ

【作】ヨハン・アウグスト・ストリンドベリ

【翻訳】一川 華

【演出】万里紗

【出演】森川由樹、山田キヌヲ

【あらすじ】

クリスマスイブのカフェ。女優のミセス・Xは、偶然再会した同僚ミス・Yに、自身の幸福を饒舌に語り続ける。対照的に沈黙を貫くミス・Y。しかしその静寂は、ミセス・Xの心に潜む夫への疑念と、女同士の複雑な愛憎を恐ろしいほどにあぶり出していく――。

## 『トライフルズ』



(上段左から)板橋廉平、平尾 仁、津田真澄、  
(下段左から)川辺邦弘、山田キヌヲ、森川由樹

【作】スーザン・グラスペル

【翻訳】浦辺千鶴

【演出】万里紗

【出演】板橋廉平、平尾 仁、津田真澄、川辺邦弘、山田キヌヲ、森川由樹

【あらすじ】

アイオワ州の荒涼とした農場。農場主ジョン・ライトが自宅のベッドで絞殺されているのが発見される。容疑者はその妻、ミニー。「重要な証拠」を求めて、郡の検察官、保安官、そして近所の農夫ヘイルがライト家を調べにやって来る。一方、夫たちと同行した保安官の妻とヘイルの妻は台所の汚れなど「些細なこと」に目を向け、そこにミニーの孤独と抑圧された生活を感じ取る。男たちの蔑みをよそに、彼女たちが下した決断とは――。

## <2nd Week Program: 7月23日(木)~26日(日)>

### 『命を弄ぶ男ふたり／口に花を持つ男』 [2本立て上演]

生と死の境界線にいる男——岸田國士とピランデルロ、日本とイタリアの巨匠が描く男性二人芝居

【公演日程】2026年7月23日(木)18:30/25日(土)20:15

【会場】新国立劇場 小劇場

#### 『命を弄ぶ男ふたり』



(左から)寺内淳志、渡邊りょう

【作】岸田國士

【演出】大澤 遊

【出演】寺内淳志、渡邊りょう

【あらすじ】

ある鉄道線路の土手で、死を決意した「眼鏡をかけた男」と「繃帯をした男」が偶然出会う。二人は、死に至る理由やその正当性を巡って、滑稽なまでに理屈っぽい対話を重ねるが、互いの事情を知るうちに死への決心が揺らぎ始め……。

#### 『口に花を持つ男』



(左から)渡邊りょう、寺内淳志

【作】ルイジ・ピランデルロ

【翻訳】小川絵梨子

【演出】大澤 遊

【出演】渡邊りょう、寺内淳志

【あらすじ】

どこかの大都市の24時間オープンのカフェ。電車を乗り過ごした「通勤者」に、隣の見知らぬ「男」が饒舌に語りかける。男は、道行く人々の細部を観察し、空想に耽ることで生にしがみついていると語る。死の影を背負った男の不気味なまでの生への渴望に、平凡な日常を浪費していた通勤者の心は揺らぎ始める……。

## 『不毛ドライブ』

「俺、お前のこと嫌いだよ」——終わらない夜明けのドライブ。  
噛み合わない不毛な会話の先にあるのは、執着、劣等感、そして.....



(左から)濱仲 太、関口アナン

【公演日程】2026年7月23日(木)20:15／25日(土)15:00／26日(日)18:00

【会場】新国立劇場 小劇場

【作・演出】蓬莱竜太

【出演】濱仲 太、関口アナン

【あらすじ】

夜明け前の都道。居酒屋バイトの新人・安野は、泥酔した先輩の菊田に呼び出され、不本意ながら愛車で彼を送り届けることになる。執拗に絡み、無茶な要求を繰り返す菊田に、安野は苛立ちを隠せない。しかし、目的地をはぐらかし続ける菊田の真意と、安野が隠していたある「裏切り」が交錯したとき、密室の車内は緊張感に包まれていく。滑稽でいて痛切な、男二人の行き先のないドライブの行方は——。

## 『軽塵』

戦後日本を代表する劇作家・秋元松代の処女作！  
家長という名の「重圧」、庇護という名の「檻」——戦火が、隠されていた「断絶」を暴く



(上段 左から)猪野 学、堺 小春、小口ふみか  
(下段 左から)横山友香、きし朱紗、まいど 豊

【公演日程】2026年7月24日(金)18:30／26日(日)15:15

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】秋元松代

【演出】須貝 英

【出演】

猪野 学、堺 小春、小口ふみか、横山友香、きし朱紗、まいど 豊

【あらすじ】

昭和 20 年夏。東京近郊の海辺の都市に暮らす佐伯理一は、空襲が激化する中、家族を疎開させ自身は東京の工場へ通い続ける決意をする。長年、家長としての重責を背負い、感情を押し殺してきた理一。その「犠牲」の上に生きてきた妹・梯子や親族たちは、家族ゆえの断絶と息苦しさを抱えていた。戦火が日常を侵食する中、孤独を抱えながら極限状態に置かれた彼らの選んだ選択は.....。

『ロング・クリスマス・ディナー』

「さよなら」を言う暇もなく時は過ぎる。一族の90年を、一場の食卓で描き出す、人生の愛おしさと残酷さに満ちたソーントン・ワイルダーの傑作



(上段 左から)浅野令子、前田一世、村中玲子、中山祐一朗、中原果南  
(下段 左から)岡崎さつき、中西良介、佐々木優樹、美利、石川愛友、向井里穂子、森 唯人

【公演日程】2026年7月30日(木)18:30/8月1日(土)15:15

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】ソーントン・ワイルダー 【翻訳】水谷八也 【演出】宮田慶子

【出演】浅野令子、前田一世、村中玲子、中山祐一朗、中原果南/岡崎さつき、中西良介、佐々木優樹、美利、石川愛友、向井里穂子、森 唯人

【あらすじ】

ベアード家のダイニングを舞台に、約90年にわたる一家のクリスマス・ディナーの風景が、途切れることのない一場の劇として描かれる。食卓を囲む家族は、新しい命の誕生を祝い、愛する者の死を悼み、世代を交代していき、かつての若者もやがて老い、去りゆく運命を受け入れていく。人生の輝きと儚さを、食卓という最小単位の間から浮き彫りにした、普遍的な人間ドラマ。

『ラスト・ヤンキー』(一幕版)

精神病院の待合室で交わされる、二人の男の雑談。成功と労働、誇りと階級——  
何気ない言葉が、心の深い傷をあぶり出す、アーサー・ミラー円熟期の傑作



(左から)本折最強さとし、石母田史朗

【公演日程】2026年7月30日(木)20:00/8月1日(土)18:00

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】アーサー・ミラー 【翻訳】小田島創志 【演出】蓬莱竜太

【出演】本折最強さとし、石母田史朗

【あらすじ】

州立精神病院の待合室。妻のうつ病治療に付き添う二人の男、リロイとフリックが偶然出会う。名家ハミルトン家の末裔で大工として働くリロイと、成功した実業家フリック。対照的な二人の静かな会話を通して、仕事・階級・誇り・成功といった価値観の違いが浮かび上がり、友情のようでいてすれ違う緊張が生まれる。失われた誇りと再生への微かな希望、真の幸福とは何かを問いかける——。

## リーディング公演『パッシング・バイ』

偶然の出会い、重なる病、そして短い恋。

1970年代のNYを舞台に、人生の一瞬が鮮やかに輝き、やがて爽やかに過ぎ去る。



(左から)長井健一、森 かなた

【公演日程】2026年7月31日(金)18:30／8月2日(日)15:15

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】マーティン・シャーマン

【翻訳】広田敦郎

【演出】山田由梨

【出演】長井健一、森 かなた

### 【あらすじ】

1972年のニューヨーク。映画館で偶然出会った画家のトビーと元飛込選手のサイモンは、短い時間を共に過ごすうちに心を通わせる。仕事や恋に傷つき、ともに肝炎に感染していることが発覚した二人は、互いの看病の日々を通して、図らずも濃密な時間を共有することになる。ぶつかり合い、語り合う中で深まっていく絆。しかし、快方に向かうとともに、将来への価値観の違いが明らかになり.....。

## リーディング公演『ナディア』

多民族・多宗教国家シンガポールの劇作家だからこそ描けるリアル——

「共生」に揺れる、家族の物語



【公演日程】2026年7月31日(金)20:00／8月2日(日)18:00

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】アルフィアン・サアット

【翻訳】一川 華

【演出】小山ゆうな



(上段 左から)渡邊真砂珠、小島 聖

(下段 左から)田中 亨、ユーリック永扇、中村まこと

### 【出演】

渡邊真砂珠、小島 聖、田中 亨、ユーリック永扇、中村まこと

### 【あらすじ】

シンガポールに住むマレー系ムスリムのナディアは、大学内ではムスリム・ソサイエティの副会長をつとめる女子大生。中国系の出自を持ち、かつてムスリムに改宗した母・サヒラが、キリスト教徒の医師ロバートと再婚することを知り、ナディアは激しく動揺する。信仰と家族の絆、そして多文化社会の現実に直面し、彼女のアイデンティティは揺らぎ始める。

『煙草のハイ(High)について -吸煙對身體有 High-』

台湾の劇作家・鴻鴻による、チェーホフの『タバコの害について』をオマージュした一人芝居



かんのひとみ

【公演日程】2026年8月1日(土)19:30／8月2日(日)19:30

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】鴻鴻

【翻訳】山崎理恵子

【演出】小川絵梨子

【出演】かんのひとみ

【あらすじ】

禁煙を推進する側の人間でも医学博士でもない一人の女性が、「煙草の害について」というテーマで講演に招かれ、自身の喫煙体験や娘との関係をユーモアを交えて語り出す。彼女の独白は、あちこちと話が脱線し、自身の恋愛歴や、煙草を巡る社会の偽善や公権力への違和感、台湾の状況について話が繋がっていく。

## 公演概要

【演目名】「20の物語一週末を、劇場でー」

【公演日程】2026年7月16日(木)～8月2日(日)

【公演会場】新国立劇場 小劇場 ほか

【演出】赤澤ムック、小林七緒、鶴山 仁、西沢栄治、万里紗、大澤 遊、蓬莱竜太、須貝 英、鈴木アツト、宮田慶子、山田由梨、小山ゆうな、小川絵梨子[上演順]

【チケット料金】

【A 料金公演】『マクベス』: 全席指定 5,500円

『チョコレート・アンダーグラウンド』: おとな(中学生以上): 5,500円／子ども(4歳～小学生): 2,750円

【B 料金公演】全席指定 3,300円

※定価から約10～15%OFFのお得な「半日券」もございます。

【チケット一般発売日】

6月9日(火)10:00～

【公式ウェブサイト】

<https://www.nntt.jac.go.jp/play/short-stories/> ※4月20日(月)15:00に更新します

＜本件に関するお問い合わせ＞

制作部演劇 広報担当: 杉田 TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737